

## こども教育宝仙大学 研究室だより 第17回

### 「型の無いダンス」を通してダイバーシティを理解する

ダンスとは子どもたちにとってどのようなイメージがあるでしょうか。TVで見られるような音楽に合わせてカッコいいステップを踏んで踊るものでしょうか。振付をしっかりと覚えてTVの向こうのアイドルやダンサーのように上手に踊れるようになることがダンスのねらいでしょうか。

ダンスは、身体運動であるとともに表現活動の一環です。自分なりの表現をできればいいわけですから、ダンスに決まった型や振付は必ずしも必要ではありません。私の研究実践では、「型の無いダンス」や「自由なダンス」に取り組んでいます。型の無いダンスでは、基本的にみんなが自由に踊ることができます。そこには「この子は上手」「あの子はあまり上手じゃない」という価値観は存在せず、一人一人の表現の多様性があるのみです。それらの中には、「これはダンスなの？」という表現もちろんありますが、むしろそのような表現こそ大歓迎です。様々な表現が混在していて、それらを受け入れることが重要なのです。

昨今、「ダイバーシティ」（多様性）という言葉が叫ばれています。グローバル化が加速する現代社会では、私たちは「世の中には多様な価値観や表現があること」を理解して柔軟に対処しなくてはなりません。子どもたちが型の無いダンスを通して表現の多様性を学んでいくことが、ひいてはダイバーシティを理解する礎(いしずえ)になるのではないのでしょうか。

(松岡綾葉 研究分野：舞踊学、身体表現、身体教育学)

身体遊びマイスター受講生によるダンスワークショップの様子

